

双ヶ丘中だより



京都市立双ヶ丘中学校 4/8 第2号 文責 上田

学校教育目標 「探究心を持って未来を創造し、心豊かにたくましく生き抜く生徒の育成」

令和4年度 第74回入学式

4月7日(木)に、ご来賓や保護者の皆様にご臨席いただき、第74回入学式を挙行しました。167名の新入生が、新しい制服姿で校門をくぐりました。新入生は、引き締まった表情で希望に満ちた姿を見せてくださいました。式は、厳粛な雰囲気の中にも温かさを感じるものでした。



式辞の一部をご紹介します。

皆さんに心がけてほしいことを二つお話しします。

一つ目は、「志を持ち、夢や希望に向かって、粘り強く、挑戦していく」ということです。中学生時代は、知性や感性が豊かになり、大きな夢に向かって、突き進んでいく時期です。夢を持てば目標ができる、目標ができれば計画が立ち、計画が立てれば実践ができます。だからこそ、皆さん一人一人が夢に向かって目を輝かせ、夢中になって取り組む姿を見せてほしいと思います。そのために皆さんに次の言葉を送ります。それは「先入観は可能を不可能にする」という言葉です。この言葉は、メジャーリーグで活躍する大谷翔平選手が、高校時代の恩師から送られた言葉で、今も大事にしているそうです。代名詞の「二刀流」をはじめ、夢や希望に向かって道なき道に挑戦する原点となったそうです。「どうせ無理」「どうせ自分は」「自分はダメだ」と思っている人には、どんな力も身につかないと思います。自分に対する良いイメージを持たない限り、スタートラインにも立てません。皆さんには、「やれそうだ」「おもしろそうだ」「やってみたい」そんな思いをもってワクワクした気持ちで中学校生活のスタートさせてください。

二つ目は、「人とともに生きる力を身につける」ということです。皆さんがこれから中学校で学び、身につけていく様々な学力や能力は、人とともに生きる力があって、初めて社会で生かすことが出来るのです。集団で生活する学校には、いろいろな人がいます。自分とは、性格、体格、考え方、物の受け取り方が違う人がいます。しかしその違いが当たり前なのです。違があるからこそ面白いし、自分の知らない自分を発見するチャンスがあります。大切なことは、人との関りの中で、相手の思いを理解し、自分の思いを理解してもらうことです。大切なのは相手を受け入れようとする気持ちであり、相手を理解しようという姿勢があれば、自分の思いは相手に伝っていくと思います。

「就学援助」及び「総合育成支援教育就学奨励費」制度のお知らせ

京都市では、お子さんが市立小・中学校へ通学するにあたり、経済的な理由により、お困りの保護者に対して、学用品費や給食費などを援助する就学援助制度を設けています。

なお、市立小学校卒業時に就学援助の認定を受けていた場合、新規の申込みは不要です。継続の案内は別途お知らせします。

*新型コロナウイルス感染症の影響により家計が急変する等、経済的な理由でお困りの場合は、収入状況の悪化がわかるものをご提出いただくこと等により認定できる場合がある臨時措置を設けております。まずは、学校にご相談ください。

また、育成学級に在籍しているお子さんご家庭や、普通学級に在籍し、総合支援学校に通う程度の障害があるお子さんに対し、学用品費等の一部を補助する総合育成支援教育就学奨励費制度も設けています。

申込みの手続きやご相談・ご質問がある方は学校までお申し出ください。